



山先役宅跡

使い古しの石臼を再利用
 金山の面影が残る山ヶ野を歩いてみましょう。広い屋敷の前には、石積みが築かれています。この石積みの角つこの部分に注目です。角つこには丸くて片方が平べったい石が積んであります。この石は、金鉱石を砕くのに使った石臼です。石臼は金鉱石を砕くのに使った石臼です。石臼は金鉱石を砕くのに使った石臼です。石臼は金鉱石を砕くのに使った石臼です。



明治四十一年十月山ヶ野金山三番滝製煉所 尚古集成館所蔵



谷頭搗鉢所跡



山神社

霧島市
 じまんばな誌
 ①-1
 山ヶ野金山

薩摩の郷土開発の原動力となった
 山ヶ野金山の栄華と汗の跡を訪ねよう



とじ山坑跡

ゴールドラッシュにわいた町

霧島市横川町山ヶ野地区の「ふれあい交流館」は、その昔、薩摩藩主が金山に來られた時の御座所の跡にあります。山ヶ野では江戸時代の初めに金の採掘が行われ、三里(約12km)四方の鉱区に、なんと2万人が暮らしていました。当時、薩摩藩の領地だった薩摩・大隅・日向の人口をあわせて35〜36万人くらいですから、山ヶ野がゴールドラッシュでいかににぎわったか想像がつくと思います。

金山は薩摩藩が取り仕切り、金山奉行はじめ役人、鉱山技師、坑夫、商人などが住み、それに藩内外から一攫千金を求めてやって来た人もかなりいました。それだけの人たちが暮らすわけですから木綿・古着などの衣類、米・味噌・醤油・酒・お茶などの食料、油や材木などの燃料を扱う店、それに質屋や風呂屋などがあり、生活に関するすべてが揃っていました。さらに刑所や遊郭まであったといえますから、都会と言つていいのかもしれない。

1640年に発見されてからわずか3年で金の生産量は約26トン、休山する昭和28年までの299年間に約80トンの金銀が産出されています。金山といえは佐渡金山が有名ですが、こちらは約4000年で82.9トンです。山ヶ野金山はこれに匹敵できる金山でした。

語り手 有川 和秀さん

山ヶ野金山に近い安良小学校の元校長先生。在任中から山ヶ野金山の魅力にひかれ、こつこつと歴史を掘り起こしてきた。「黄金の郷山ヶ野史跡ウォーキング」を開催し、ガイドを務めるなど想いは熱い。現在は山ヶ野金山文化財保護活用実行委員会専門委員。



山ヶ野金山近代化の足跡
 ふれあい交流館から車で山道を10分ほど登っていくと「夢想谷」と呼ばれる場所があります。夢のお告げによって金鉱石を発見したという山ヶ野金山発見伝説の地です。

たくさん使いましたが、磨り減ると新しいものに代えたため、古い石臼は屋敷まわりの石積みなどに再利用されています。いわゆるリサイクルです。こうした屋敷がブラッと並んだ町が山ヶ野には33もありました。その中で、ぜひ見ていただきたいのが金山全体を取り仕切る鉱山技師長・山先役の屋敷。重厚な郷土門と横に建つ石蔵がすばらしいです。郷土門をくぐると屋敷の前に庭がひろがっています。庭には、踏み石とし、使い古しの石臼が置かれています。山先役宅の前の畑には、巨大な石臼を見ることができま



す。他にも山神社があったり、串木野町、福山町、加治木町など、ここで暮らした人たちの出所がわかる町の名があったそうです。古い金山町の面影の残る静かな里山をのんびり楽しんでみてください。

山ヶ野金山では、金鉱石を掘った大小様々な坑道跡を見ることが出来ます。とじ山坑跡は、高さが2メートル近くある大きな坑道です。坑口の方へ近づいてみてください。穴の中から涼やかな風が吹いてきます。当時の息づかいが感じられて、なんだか不思議な気持ちになりますよ。一方、坑道の近くにある動物のすみかのような小さな穴は、自家掘坑跡といって、会社と契約した個人が掘ったものです。家族やわずかな使用人で操業し、一人がやると通れるほどの小さい穴にもぐって金を掘っていました。真っ暗な坑道の中、小さな明かり（小灯）に頼った作業はとても大変だったと思います。こんな苦労の中から、山ヶ野金山が薩摩藩にもたらしたものは大きく、奄美の黒砂糖と同じく山ヶ野の産金は、藩にとって大きな財源となっていました。

明治に入るとフランス人鉱山技師を招き、鉱山の近代化を図りました。明治7年には、蒸気機関動力の搗鉱所が造られ、昼夜分かつ回転の音がこだまし、金山一帯が大工場のような感じでした。明治40年には電力が導入され、産金量は明治初めの頃の約4倍に増えました。

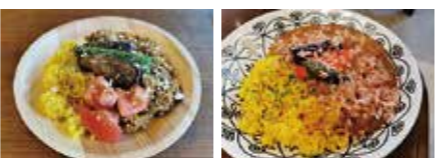
なお、明治期には、西郷隆盛の息子西郷菊次郎や五代友厚の養子五代龍作が山ヶ野金山鉱業館の館長を務めたりしています。こうした輝いた歴史を持つ、山ヶ野の貴重な歴史遺産にふれてみてはいかがでしょうか。

立ち寄りスポット



横川 Kito
 築90年の古民家をセルフリノベーションした古民家カフェで、食品と雑貨のセレクトショップです。スパイスカレー、飲み物はテイクアウトOK!

住所：横川町中ノ991-2
 営業時間：11:00～16:00
 不定休 ☎0995-73-3574



大隅横川駅
 明治36年(1903)肥薩線の開通にあたり、開設した大隅横川駅。現存する木造駅舎としては、嘉例川駅と共に県内最古の駅舎です。駅舎の柱には第二次大戦中に被災した機銃掃射の貫通した跡が残っています。



森山家住宅石倉
 大正5年に造られたといわれ、現在も食品倉庫として現役で利用されている森山家の石蔵。美しいアーチ状の入口は、当時の職人の技術の高さが感じられます。



霧島市
 じまんばな誌
 ①-2
 山ヶ野金山

